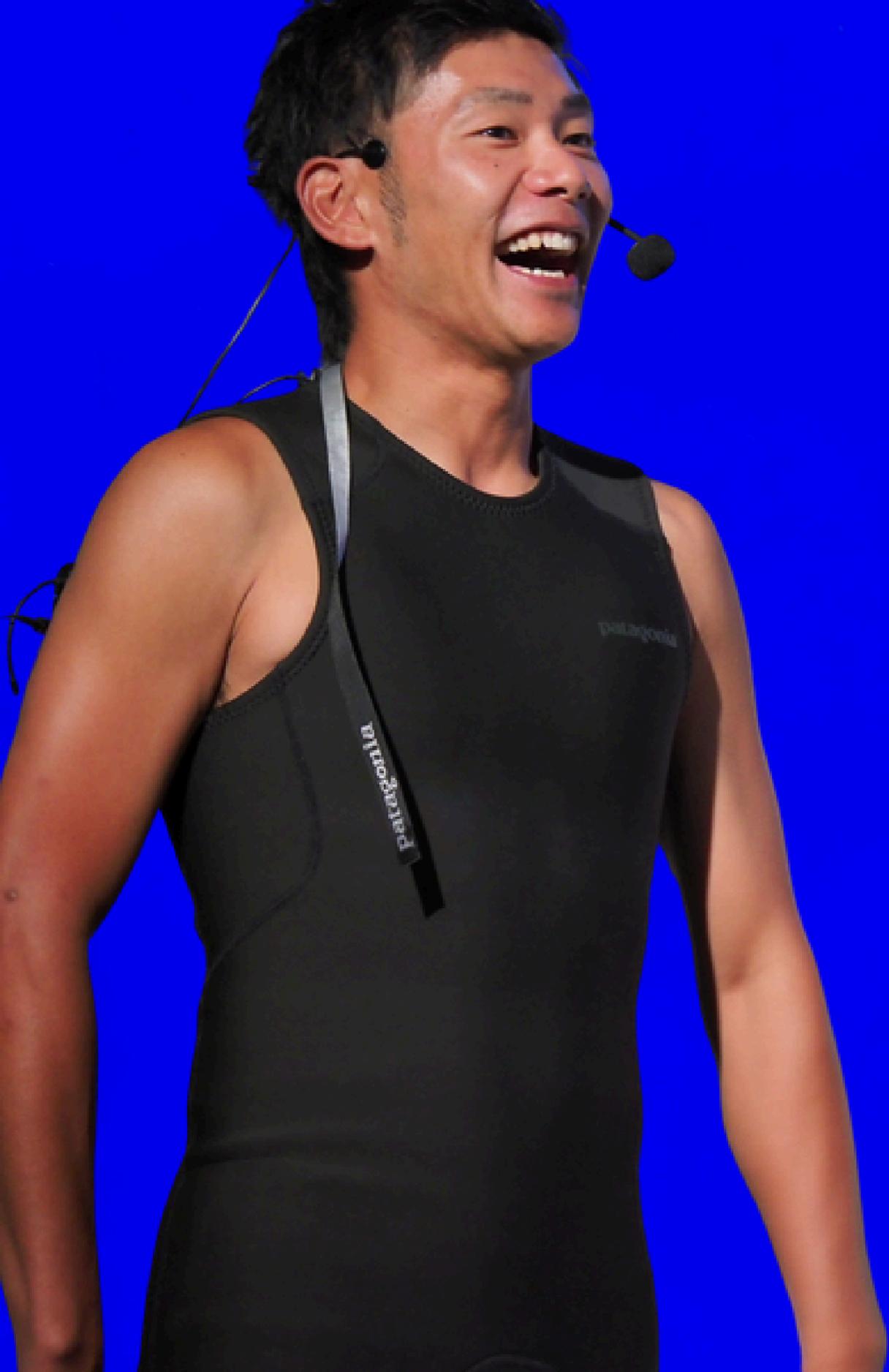


地球環境基金活動共有会

～ふくおかFUNが大切にしてきた現場づくり～

一般社団法人ふくおかFUN
代表理事 大神 弘太郎



大神 弘太郎

おおがみ

こうたろう

一般社団法人ふくおかFUN 代表理事

スキューバダイビングインストラクターとして沖縄、西表島、オーストラリア、ニュージーランド、トンガ王国などを点在。

震災をきっかけに緊急帰国、災害救援NPOを設立し、南三陸、九州北部豪雨、熊本地震などで活動
2014年一般社団法人ふくおかFUN設立、ダイバーによる社会課題解決の活動に取り組みはじめる。

「自然伝承」 「地球の海を守る」を合言葉に活動

～自然伝承～ふくおかFUNの挑戦

当団体は「自然と人のつなぎ役」として福岡の海に潜り続けることで、「ダイバーだからこそ」伝えることのできる取り組みや活動を生み出し続けています。

アオサ回収

大量発生しているアオサ（アナアオサ・ミナミアオサ）を回収して水中環境を保全するだけでなく、回収したアオサの有効活用を目指して試行・検証を行っています。

藻場造成

アマモ場を造成することで、生物多様性の保全や地球温暖化の抑制に取り組んでいます。

水中調査・撮影

年間をとおして博多湾を中心とする海に潜り、水中世界の現状を記録し続けています。

授業・講演

水中調査・撮影したデータをもとに、博多湾を中心とする水中世界の現状・魅力・課題を発信しています。

クリーンアップ

海岸や河川の清掃活動を行い、海洋ごみの削減と啓発に取り組んでいます。

シュノーケリング体験

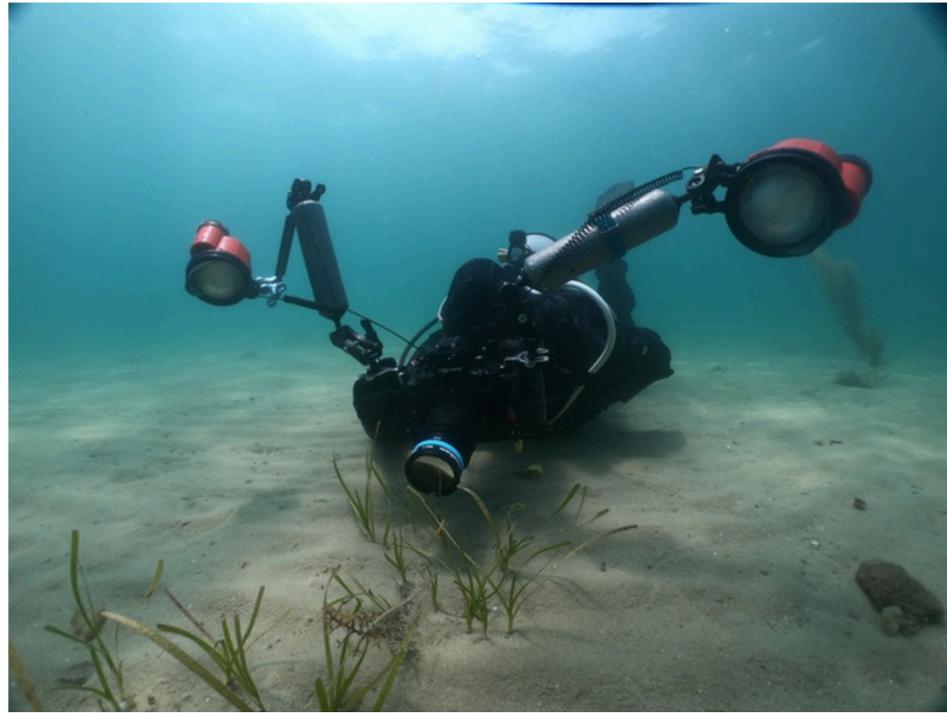
プロダイバーによる安全管理のもとシュノーケリング体験イベントを開催し、水中世界の魅力と課題をリアルに伝えています。

海底ごみ回収

博多湾沿岸地域を中心とする海底ごみの回収を行っています。



これまでの主な助成活動



水中調査・撮影



海の学校（授業・講演）



シュノーケリング体験



海洋ごみ回収



藻場づくり

活動と発信の積み重ねにより

様々な協働・資金調達へとつながっています



連携主体（一部抜粋）

【行政】

環境省／国土交通省／福岡県水産局漁業管理課／福岡市農林水産局水産振興課／福岡市環境局ごみ減量推進課／福岡市環境局環境調整課
／福岡市港湾空港局みなと環境政策課

【漁業関係者】

福岡市漁協志賀島支所／福岡市漁協弘支所／福岡市漁協姪浜支所／福岡市漁協箱崎支所／福岡市漁協伊崎支所／福岡市漁協能古支所／
福岡市漁協唐泊支所／福岡市漁協小呂島支所／糸島漁協福吉支所

【企業】

東京海上日動火災保険株式会社／株式会社福岡放送／株式会社リディラバ／パタゴニア／アルサグループ／マリンワールド海の中道／
株式会社ドコモ九州支社／八千代エンジニアリング株式会社／NHK福岡放送局

【教育機関】

福岡市立北崎小学校／福岡市立田隈小学校／福岡市立百道浜小学校／福岡市立福翔高等学校／福岡市姪北公民館

【研究機関】

福岡県水産技術センター／九州大学大学院比較社会文化研究院／九州産業大学建築都市工学部／一般財団法人九州環境管理協会／
岡山大学理学部地球化学科

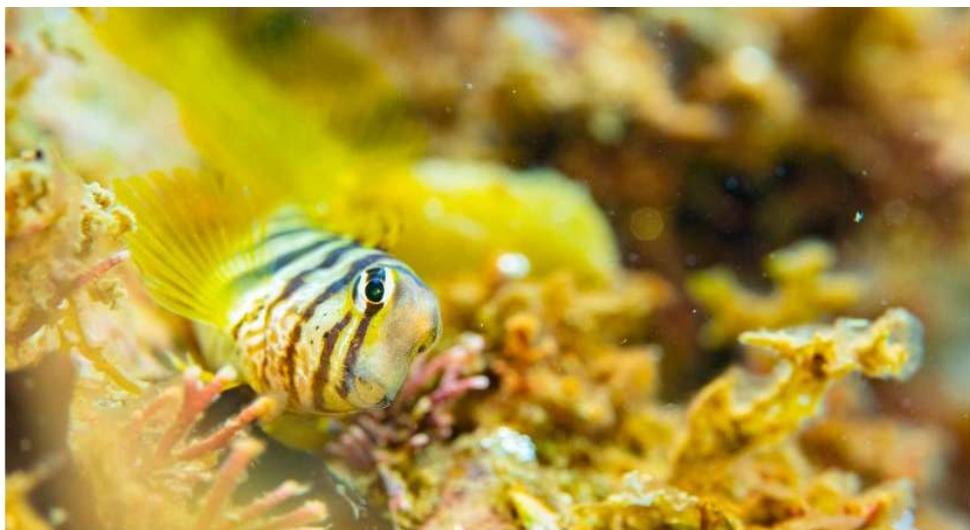


協働・資金調達へとつながった具体例 ①

水中撮影およびメディア出演

当団体固有の特性である「ダイバーだからこそその視点＝水中写真・映像」を活動の場やWEB上で発信し続けたことにより、地元または全国区のテレビ局との連携が生まれ、撮影データの提供やメディア出演への機会を得ることができています。

また、単に話題を提供するだけでなく活動をともにすることで、連携や啓発が強化されています。



企業研修における講師依頼

様々な主体が連携する場（福岡県ブルーカーボン推進協議会・博多湾NEXT会議・環境フェスティバルふくおか等）へ積極的に参画しながら、フィールド活動を伴わない授業や講演の様子もしっかりと活動報告として発信しています。

これにより、企業の社員向け研修での講師依頼へと繋がりました。座学の間が契機となり、実際の保全活動連携も多く企画されるようになっていきます。



企業による環境保全の取り組み連携

近年、企業には環境保全への積極的な取り組みが強く求められています。地域の自然資源を守ることは企業価値の向上や社会的責任の達成にもつながるため、その重要性はますます高まっています。

日々の活動を繰り返し、現場の知見を伝え続けたことで、様々な協働へと繋がっていきました。



これらの活動の根底にあるものは
「ひとの気持ち」



持続可能なチーム形成

POINT

外部への働きかけよりも、まずは団体内におけるメンバーの相互理解や目的意識の共有を重視しています。

目的

- 共通の目的や価値観が揃うことによる、現場での判断と行動の安定
- メンバー同士の相互理解が深まることによる、役割分担や連携の円滑化
- 個々の“なぜこの活動をするのか”が明確になることによる、モチベーション向上
- 活動の「基準」や「判断軸」が揃うことによる、現場判断のスピード向上



- *メンバーの行動や発言が“FUNらしさ”として統一され
ブランドとしての信頼が高まる
- *内部が整っていることが、自然と外部にも伝わり
結果的に協働や支援が増える



Mission

存在意義



自然と人のつなぎ役 Translator



Vision

目指す方向



海のために行動を



海のために対話を



海のためにポジティブを



判断基準：行動するかしないかを決める基準軸
～自然伝承に繋がっている??～

行動×対話×ポジティブ＝自然伝承

- 自然に敬意があるか
- 多様性を受け入れているか
- 一歩踏み出す勇気を持っているか

- 相互信頼を持てているか
- ワクワクしているか
- その先を想像しているか

- 人に元気・勇気を与えているか
- 人を選ばず自分らしくあるか
- 社会を笑顔にできているか

- 出来る方法を考えているか
- 聞く勇気を持てているか
- 学び続けているか



行動基準：全員がどのようなときも意識して体現していく価値観
～こうするともっと良くなる!～

- どんどんチャレンジすると…ワクワクが止まらない
- 分からないことをそのままにしないと…後々困らない
- いつでも人や自然に感謝すると…地球が元気になる
- ネガティブもポジティブに変えると…楽しくなる

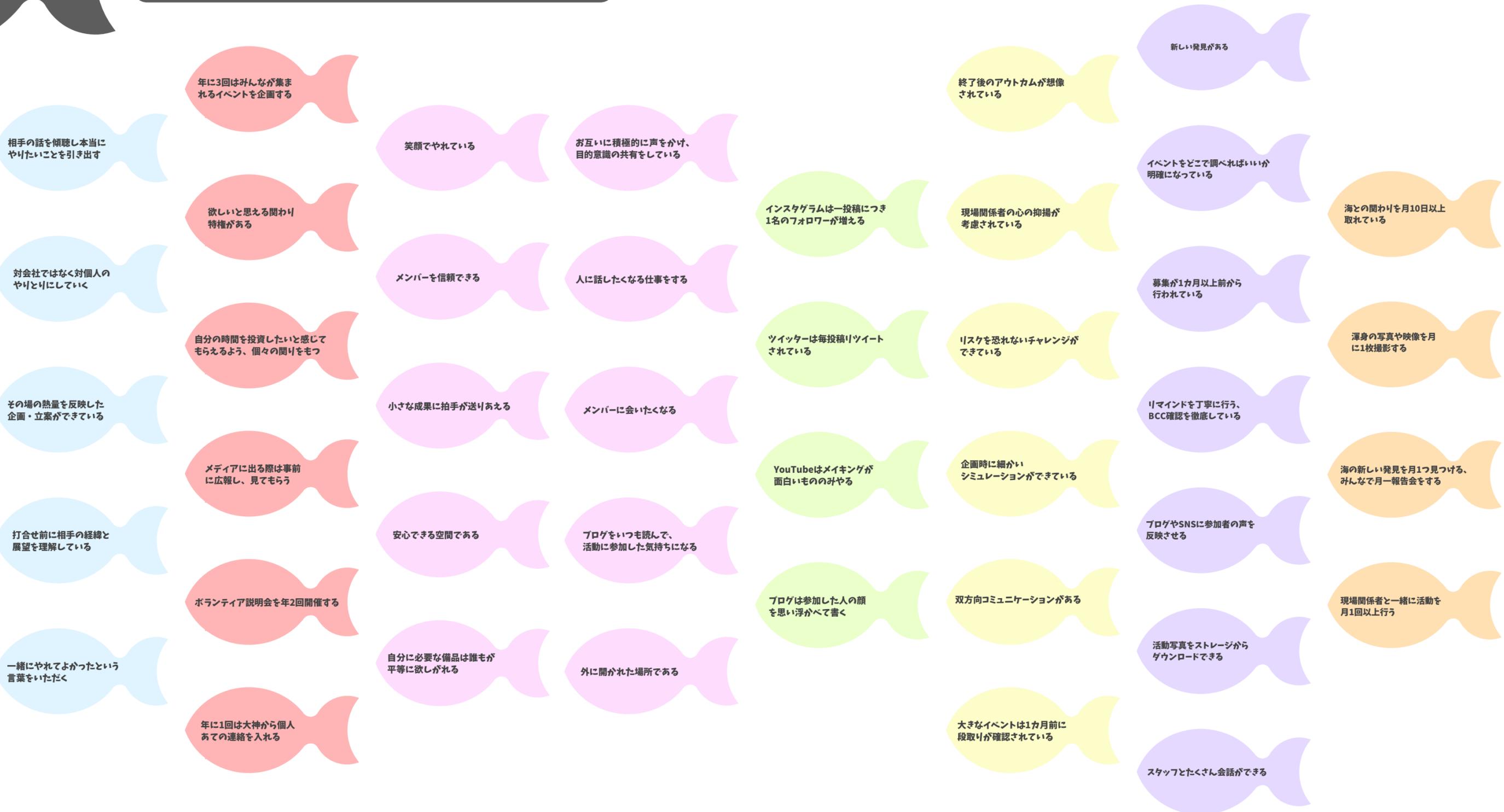
- 上手くいった時こそ振り返ると…想像以上の成果につながる
- 率先して挨拶をすると…気持ちのいい関わりが持てる
- 人が喜ぶ行動をとると…喜びが連鎖する
- 相手の意図をキャッチすると…期待を超えられる

- 自分から心を開くと…信頼関係が築ける
- 相手の目線で対話すると…違う考え方を尊重できる
- 本業であるというプライドを持つと…プロフェッショナルになれる
- 当事者であるという自覚を持つと…自分の人生の主人公になれる

中期ビジョン

2025年11月30日までに

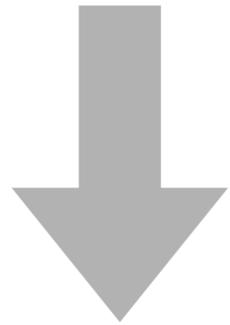
日本で一番ワクワクしている環境団体になる



ふくおかFUNとしての【価値観】の再定義

①心理的安全性についての理解

心理的安全性とは：「率直に発言したり懸念や疑問やアイデアを話したりすることによる対人リスクを人々が安心して取れる環境のこと」



- 心理的安全性を脅かす不安要素について認識し、目指したい状態を全員でイメージする
- 目指したい状態：「チームの目指す結果や成果のために、意見の衝突を健全に行うことができる状態」

②団体としての共通認識

ミスやインシデントを報告・相談・共有することでチームとして学びながら成果をあげていくために心理的安全性が高い職場にしていくことがチームにとって必要だという認識を共有

POINT

共通認識をつくってから個人の価値観と団体の価値観をそれぞれ出して
「日本で一番ワクワクした環境団体であること」を再定義

FUNとしての価値観の再定義

ワクワクの定義（暫定）

「過去から現在の変化、または未来に**プラスのイメージ**ができていて
可能性（期待値）を感じられることに、当事者として関わることができる」

自然と人のつなぎ役であるために、
自然に向き合うことはもちろん、そこに向き合う人（地域社会や活動団体、市民・スタッフ自身も）が
ワクワクしていることが重要



そのためには団体として、そこで一緒に活動する仲間のwell-beingが重要



団体として○回活動すること、○○○人に声を届けることなどの数値目標だけでなく
その瞬間に相手の気持ちを動かせるような関わりを持っているか
その相手がどんな行動を起こしたかといった
目に見えにくい価値（コベネフィット）を重視するように再定義

心理的安全性を確保した対話の場



現場活動（経験値）



プロフェッショナリズムの醸成



自信をもった啓発



多様な主体が連携したくなるチーム



資金調達

**「ひとの気持ち」を大切にすることが
活動の強化につながっています！**

